別紙

令和８年度校区まちづくり交付金　交付決定助言書
【曙川小学校区まちづくり協議会】

〔交付決定にかかる条件〕

※下記に記載の〔交付決定にかかる条件〕については、年度内の活動の中で実践や実施に向けた検討を進めてください。その実績や検討状況については、実績報告書に記載いただき、ご報告ください。

〇チャレンジメニュー①：3-①ホームページやインスタグラムやXなどSNSの導入

・SNSは、HPと比較してお金もかけずに気軽にすぐに公開可能ですので、その運用についてご検討ください。また、広報については、運用継続が重要です。勉強会を開催されるとのことなので、その場を活用して、できるだけたくさんの担い手が更新作業に関われる人材育成をご検討ください。

・広報の手法について、他の事業と同様に回覧板と掲示板を主に想定されていますが、ネット利用の情報発信の場合、少し発信の工夫が必要です。計画されているとは思いますが、SNS等の二次元バーコード掲載は大切です。他にも、この二次元バーコードを知らせるチラシを各イベントで配布するなどの展開をご検討ください。

〇チャレンジメニュー②：4-①社会とのつながりづくり

・世代を問わずあらゆる人が集い交流できる場所とありますが、多様な人々が毎回集まれていない等、もし顔ぶれが固定化しているなら、「多様な人々の集まり」を意識して事業をご検討ください。

・担い手（ホスト）も参加者（ゲスト）も、時に入れ替わって交流できる場になると人が人を呼び本来の目的達成に近づくと思いますので、その手法についてご検討ください。

〇チャレンジメニュー③：2-④組織基盤の強化

・広報が重要なことは言うまでもありません。チラシの配布のみならず、現在検討中のホームページやSNSの活用もご検討ください。

〇取り組み②：こどもの見守りパトロール

・効果の見える化をご検討ください。この取り組みはおそらく過去から行われてきていると思うので、ねらいにも書かれているように、実際、犯罪等防止（件数の減少など）につながっているのかなど、いくつかの指標を立ててのチェックの実施についてご検討ください。

・不審者や交通事故等の前年度比較による目標設定や効果検証の実施についてご検討ください。計画書で目標設定、報告書でその成果（目標に達していなくてもいいので）を記すことで、活動へのモチベーションや担い手へのPRにつながると思います。ご検討ください。

・子どもの下校時間は学年や学童保育参加の有無によって異なると思いますが、計画書に対象の学年と見回り時間帯など明確にされると良いと思います。ご検討ください。

別紙

〇取り組み③：防災訓練の実施と防災体制の構築
・一部の人たちだけで計画策定や訓練実施とならないよう、できるだけ多くの校区民を巻き込む工夫をご検討ください。具体例として、以下の事例を参考にご検討ください。

「カエルキャラバン」
（http://kaeru-caravan.jp/）
「発災対応型防災訓練」
（https://www.fdma.go.jp/relocation/e-college/cat66/cat62/cat57/3-25.html）

・啓発物品のサランラップは、防災以外の事業でも上がっています。啓発のためにモノを配る場合、「何を啓発」するのかが重要になります。防災訓練でサランラップを配るのであれば、「身近な応急手当や非常用品として役立つ」ことを知らせるシートなどを一緒に渡すと良いと思います（包帯がわり、ブラケット代わりなど)。ご検討ください。
・災害時の避難場所は避難所に行くこと以外にも在宅避難や知人・親族等宅への非難も考えられれることから、事前に避難場所を考えておくことが重要となります。また、災害によって避難行動が異なる点についても住民周知することが大切ですので、災害時の避難行動の啓発についても防災訓練の実施とあわせてご検討ください。

〇取り組み⑥：グラウンドゴルフ大会の開催
・過去からも実施されているようなら、これらが「世代間交流」に貢献できているのかについて、参加者へアンケートを実施したり、世代別参加者の人数などを計測するなどして、そこで明らかになった課題が、次期に解消されるような工夫についてご検討ください。

〇取り組み⑦：年忘れ演芸会の開催
・高齢者や子育て世代など住民間の交流はできているでしょうか？どのようなプログラムで交流を図っているのか、計画書にも明文化されると良いと思います。ご検討ください。

〇取り組み⑧：モルックの普及支援・取り組み⑨：もちつき大会の開催
・上記記載の「取り組み⑥：グラウンドゴルフ大会の開催」と同様に、取り組みにかかる課題が次期に解消されるような工夫についてご検討ください。

〇取り組み名称⑪：地域による健康増進事業の支援
・ノルディックウォークなどにより、どれくらいの健康増進が進んだのかなど、保健師などの協力も得て、事前事後での数値化、あるいは参加者の質的調査などで、客観的に評価できるような工夫についてご検討ください。

別紙

〔今後の活動にかかる助言〕

※下記に記載の〔今後の活動にかかる助言〕については、まち協活動でご活用ください。こちらの項目については、実績報告の際の実施状況等のご報告は不要です。

〇取り組み④：社会とのつながりの推進について、以下のつながりづくりの事例を今後の取り組みの参考にご検討ください。

・明石市における「つながりサロン」
（https://a-machi.jp/am-event/%e3%83%a8%e3%83%ab%e3%81%a4%e3%81%aa/）

・地域住民と福祉専門職と学生が共創する活動：「千住カレッジ」の取り組み
（この冊子の 83 ページからをご覧ください）
（https://www.ntu.ac.jp/media/Anl_repV4_web.pdf）

・神奈川県の「フリースペースたまりば」
（この冊子の 16-17 ページをご覧ください）
（https://www.pref.kanagawa.jp/documents/77839/sdgsactionbook_kanagawa_a4.pdf）

〇取り組み⑨：もちつき大会の開催について、若い世帯の親子参加がしやすい取り組みだと思います。比較的居住年数の浅い住民も参加できる世代間交流の場になることを意識されると良いと思います。

〇取り組み⑩：HP や SNS を活用した地域の情報発信について、八尾小校区まち協で実施された広報力向上研修などを参考に取り組みをご検討ください。

〇全体を通して

・啓発物品が全て「サランラップ」とされていますが、事業に応じての見直しをご検討ください。まち協の啓発と合わせて、その事業ごとに啓発したいことを考え、それでもサランラップが良いとする場合は、防災訓練の助言欄に書いたような工夫をすることで「啓発」の意味が高まります。

・申請書に各事業のプログラム等の詳細が書かれていませんが、具体的に何をするのか、どのように効果検証するのかも計画時に検討し担い手が共有することで、事業がより効果的に行えると思います。ご検討ください。

・曙川小学校区の人口と世帯数の推移を見ると、この 5 年間で約 1.2 倍に増えています。大阪、奈良への利便性の高さと市街化調整区域でのまちづくりにより若い世帯が増えていると推測します。新住民も気持ちよく関われる地域活動を目指して頑張ってください。（土地勘がない、データだけのコメントをご了承ください）